

## 地には平和がありますように

2~3面 喜びも悲しみも、分かち合う季節に  
山梨英和大学 宗教主事 大久保絹

4~6面 地域YWCAの小さなおいしいストーリー

7面 ひろしまを考える旅2025への誘い

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

12

DECEMBER  
2024

No.783

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)

〈第33総会期主題聖句〉  
平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉  
女性がリーダーシップを発揮し、  
人権・平和・環境を大切に作る社会

〈ミッション〉  
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉  
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

憎しみのあるところに愛を。争いのあるところにゆるしを。  
絶望のあるところに希望を。闇に光を。

# 喜びも悲しみも 分かち合う季節に

山梨英和大学宗教主事 大久保絹

## ローラさんの おいしい思い出

私は『楽しいクッキングブック』（私家本）を長年愛用してきました。著者の深田ローラさんは1960年に、夫の深田未来生牧師と共に宣教師としてアメリカから京都へ派遣されました。

深田牧師夫妻とは、学生時代から親しい交わりが与えられ、いろいろな料理をごちそうになりました。このクッキングブックには私の好物であり、ローラさんの食卓を思い出す「豆腐入りヘルシーラザニア」や宣教師が日本にもたらした「パリパリラーメンサラダ」、オートミールやコーンフレークを使って作る「カウボーイクッキー」など楽しいレシピが載っています。ちなみに京都YWCAの名物「レジンジャークッキー」もローラさんがもたらしたそうです。

日本で手に入りやすい食材を使うという工夫もあり、例えばラザニアのホワイトソースは水分を切ってほぐしたお豆腐です。カロリーを気にせず食べ

ることができて幸せです。

旬の食材を使って料理できるよう、月ごとに展開されているのも特長です。12月のページにはこうあります。

「12月はイエス様の誕生を祝うために心の準備をする時。いつも弱い立場の人たちと共に生きたイエス様の生涯を覚え、家族や友人だけでなく、共に祝い喜ぶ人たちのことを思いながら支度をします。この時全体がクリスマス。」

ローラさんにとって12月24日を迎えるまでの日々が特別なのでしょう。そして大切なのは、クリスマスは、周りの人たち、とくに、さまざまな悩みや苦しみを抱えている人たちのことを考える期間だと、そつと気づかせてくれます。

## 未来を見つめる 若者たちと共に

深田牧師夫妻が日本にいられた1960年は、戦後15年という時期でした。戦争の傷跡を日本の町のいたるところに感じただけでなく、人の心

にも垣間見ることがあった、とローラさんは記しています。復興に向かっていったとはいえ、まだまだ多くの困難に人々が直面していたでしょう。家族を亡くした悲しみや寂しさ、先の見えない将来への不安を抱えていた人々も多くいたはずですよ。

ローラさんによると、そのような苦難の中にあっても青年たちを中心に、人々は人生の意味や苦しみについて真剣に考えていました。人間とは何か、生きるとは何か、家族のあり方や職場での倫理、人間が支え合って生きてゆくことのできる共同体はどうしたら実現するのか、と問いながら、希望を持って前を向いていた、といます。

ローラさん自身も京都YWCAで活躍したほか、翻訳や英語のレッスン、高校でのレクチャーや実習、カフェの運営など、さまざまな活動の中で若い人たちと出会い、おいしい料理と共にたくさんの「居場所」を提供してきました。そんなローラさんと深田牧師の教会もまた、どんな人でも歓迎し、癒しと喜びと希望の光を与えてくれる、イエスの愛の実践の場でした。

### 居る場所がない。

#### そこに希望の光が

クリスマスの出来事を記した聖書には、母マリアが生まれたばかりのイエスを飼い葉桶に寝かせたと書かれています。このことからイエスは馬小屋で生まれたと想像されますが、なぜ馬小屋だったのでしょうか。マリアは夫のヨセフと共に住民登録のためベツレヘムに向い、そこで出産の日を迎えました。しかし「宿屋には彼らの泊る場所がなかった(※)」のです。「彼らのいる余地がなかった」、「かれらのためには場所がなかった」と訳した聖書もあります。この状況に心が痛みます。もし宿屋の人たちが、産気づいたマリアの姿や、必死に出産の場所を求めるヨセフの姿に目を留め、気づいてくれたなら、馬小屋で生まれることはなかったかもしれません。しかし、このような他者から周辺に追いやられた状況の中、すべての人の希望の光となるイエスは生まれました。

### 思いや悩みを

#### 聴き合って

クリスマスは楽しい季節です。クリスマスソングが流れ、美しいツリーも見ることが出来ます。ツリーにあかりが灯る前と後を思い浮かべてください。暗闇の中に現れた光は、私たちを楽しい気持ちにさせるばかりでなく、心を落ち着かせ、和ませてくれます。そんな心華やぐときをみんなで楽しむのは素敵なことですよ。それと同時に、周りにいる人たちとそれぞれの思いや気持ちを分かち合うことも大切ですよ。ローラさんが出会った60年前の青年たちとは少し異なりますが、いま私の身近にいる若い人たちも、人間とは何か、生きるとは何か、家族のあり方、学校や職場での倫理、支え合う関係性をどう築いたらよいかと考えながら、悩みや不安を抱えているからです。

### 愛の神は

#### 誰ひとり見放さない

の光として世にられました。この光は、世の中を明るくするだけでなく、人間の内面も照らします。私たち一人ひとりが抱える悩み、傷、罪に光が向けられ、それらとどう向き合って歩むのか。愛の神は一人ひとりを決して見放さず、私たちと共にあって、光を与えてくださるのです。戦争、平和、暴力、不正、抑圧、差別、貧困、環境破壊など、ここに書き表せないほどの課題の中に私たちは生きています。このような一つひとつにも救いの光が灯され、解決に向かうようお願いしましょう。また、苦しさを抱えながらも、気づかれることなく周辺に置かれている人たちの痛みと声を聴くことができる一人ひとりになりましょう。人が生きていくことの重荷を、生きる喜びに変えてくださるキリストを心に迎え、私たちが平和を作り出すものとして歩むことができよう共に祈りましょう。

(甲府YWCA賛助員)

※新約聖書ルカによる福音書2章7節

主イエスはすべての人を照らすまこと

小さな

地域YWCAからの贈り物

# おいしいストーリー

近隣の誰か、困っている誰か、まだ出会っていない誰かのために、  
心を込めて腕を振るって、もてなしたり、分かち合ったり……。  
地域YWCAのおいしいストーリーを紹介します。



を心掛けています。  
2014年、京  
都YWCAは、「食」  
を通じてあらゆる人  
がつながる場として、  
ふれあいの居場所食  
堂「うららかふえ」  
を立ち上げまし

た。同時に開業したサービス付き  
高齢者向け住宅「サラーム」の入  
居者などの食のニーズに応える  
と同時に、地域に開いて、誰もが安  
心していただけるセーフスペースを  
目指しました。ホールだけでなく  
キッチンもセーフスペース。ここ  
では、京都YWCA内外のボラン  
ティア、就労体験に訪れる若者な  
ど多世代の「シエフ」が日ごと入  
れ代わり立ち代わり。想いや言葉  
を分かち合い、共に一つのメニュー  
を作り上げます。出会いから生ま  
れる相互作用も隠し味。おなじみ  
のチキン南蛮でも、日によって何  
かがちよつと違うのです。早いも  
ので、この秋10周年を迎えました。  
初心を忘れず、おいしい食のある  
セーフスペースであり続けます。  
京都YWCAボランティアチーム  
メンバー

京都YWCA

出会いを紡ぐ  
キッチンより



日替わりランチ



その時期に売り出すクッキー缶です。バザーで大好評だった3種（サクサクのコーンフレーククッキー、ピンクペッパーの

ペッパークッキー、香ばしいクルミクッキー）をメインに、色目や形を工夫した8種類のクッキーが小さな缶にぎゅうぎゅう詰め。当初は詰める人が「もう、入らないよう！」と悲鳴を上げるほどでしたが、大きさを調整したり形を変えたりして今の姿になりました。



去年からは名古屋YWCAのキャラクター「きふつち」も仲間入り。かわいらしい缶を開けると、ぎつしりと詰まったお馴染みのクッキーたちが顔を出します。その優しく甘い香りと共に、名古屋YWCAの歴史の風がふんわりと漂ってくるのを感じていただければと、作り手は毎年夏が終わるころから腕まくりをしています。

名古屋YWCA 長橋美保

## 名古屋YWCA

### 愛と知恵の詰め合わせ



クッキー缶

## 函館YWCA

### 受け継がれる「いつもの味」



ドライカレー

名古屋YWCAで長年愛されてきた「秋のバザー」が、新型コロナウイルスの流行などにより、2019年を最後に幕を下ろしました。これまで何十年もかけてたくさんの会員たちが知恵を出し合い、積み重ねてきたバザー名物クッキーやケーキのレシピもしだいに忘れられ……

30余年前、函館YWCA会館の2階でホステルを運営していた頃のこと。当時、日本YWCAを退職したばかりの伊東玲子さんが会館の管理人を務めていました。彼女は料理が得意で、ハイカラな洋食を拵えては宿泊客や会員たちに振る舞っていました。とりわけドライカレーは好評で、折に触れて食卓に並んだものでした。その後「プチ・カフェ」の利用者に提供して手ごたえを感じたこともあり、2019年「カフェ&ショップ

リ・ボーン」を営業した際には、自信を持ってメニューのトップに据えました。3年前、伊東さんは天に召されましたが、受け継がれた

たレシピは会員たちの創意工夫で大切に育まれています。道産のタマネギ、ニンジン、ピーマン、キノコなどの野菜を均等に刻み、ひき肉と炒めて、秘密のスパイスと合わせます。最初にタマネギを丹念に炒めるのが、おいしさの秘訣。素材のうまみとスパイスの芳香、隠し味のレーズンの絶妙な調和がクセになります。カフェのメニューでは断トツの人気。たまには他のメニューにしようかと迷った末に「いつものカレー」に落ち着く常連さんもいます。いつでも、若い時期を函館で過ごした方が来店し、懐かしそうに味わっていました。「いつもの味」を作ることに喜びを感じます。これからも身体が続く限り、作り続けます。

函館YWCA「カフェリ・ボーン」ボランティアメンバー



しゃべりに花を咲かせるうちに、甘酸っぱいジャムの出来上がり。少量生産のため数に限りがありますが、ささやかに販売して平和活動に役立

鉧路YWCA 富安邦子

鉧路YWCA

丹精込めて  
すべて手作り

1974年の創設から今年で50周年を迎えた鉧路YWCA。その

伝統の一つは、毎年5月下旬のルバーブジャムづくりです。北海道の厳しい冬が終わると、春一番に芽吹き、元氣よく伸びて、輝く季節の到来を告げるルバーブ。畑を借りて丹精込めて栽培し、食べごろの初夏に収穫してすぐ、みんなでジャムづくりを楽しみます。みずみずしい茎を小さく刻んで、控えめの砂糖で灰汁をとりながら1時間ほどコトコトと煮詰める。お

てています。

その昔、宣教師からゆずり受けたルバーブの株を30年近く株分けしながら大切に育てふやしてきました。ところが今年、ルバーブ畑に建物が建つことになり、株の移植を余儀なくされ、ジャムづくりができませんでした。

鉧路YWCAは創設から50年間、「核」のない平和を実現する」という一本の道を地道に、あきらめずに歩み続けています。この歩みに重ねて、長く受け継いできたルバーブの株を大切に守り、また一から育てふやしていきます。新しい畑で初めての冬を迎えるルバーブの株。雪の下で大きく根を広げて力強く芽吹く、春の到来を楽しみにしています。



ルバーブジャム

> From Australia

Golden Christmas in Summer!  
黄金色のクリスマス

日本YWCAインターン  
ヤスミン・プール

私の祖母はオーストラリアの海辺の小さな街に住んでいます。ある年の夏家族みんなで祖母の家を訪れ、共に過ごしたクリスマスの思い出は、今も深く心に刻まれています。

良かったと思っています。私が「旅」の途上で見て学んだことを全部話すことができました。そうやって話すまで、どれだけ多くのことがあったのか自分でも気付かなかったし、二人が私のために本当に喜んでくれたこともわかりました。それは、私が世界中どこにいようと、いつも故郷には私を愛して支えてくれる人がいて、つながっていることを思い出させてくれる時間でした。

あの日を特別なものにするために祖母が力を尽くしてくれたことを、私はずっと忘れません。そんな祖母も高齢になり、体も弱くなりました。二人と紡いだ一つひとつの思い出は、私にとって宝物です。作ってくれた料理は、ただの食事ではなく、二人の愛と、二人が住む美しい環境の表れです。オーストラリアのクリスマスの思い出は、白い雪ではなく、黄金色です。黄金色の日々と金の砂糖、おいしい食べ物、一緒に夏を楽しむというシンプルなことと共に喜ぶ一日なのです。(要約)

※ヤスミンさんはオーストラリアから来日し、2024年9月〜10月の2か月間、日本のYWCAでインターンを務めました



Advent Calendar on Web

クリスマスを待ち望むアドベント4週間に、特別コンテンツを配信。ヤスミンさんのメッセージも全文公開します。



12月1日から  
毎週更新!

## ひろしまを考える旅2025開催決定

# 核も戦争もない世界に向けて共に歩もう

日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が2024年のノーベル平和賞を受賞しました。心からのお祝いを申し上げると共に、被団協の方々の長年にわたる草の根の運動に敬意を表します。核兵器が二度と使用されてはならないことを自らの証言によって示されてきたことが評価された受賞は、私たちにとっても大きな希望となりました。

日本YWCAは、1971年から「ひろしまを考える旅」をほぼ毎年実施しています。全国・世界からの中学・高校生を中心に幅広い世代の参加者が、被爆者から直接証言を聴くことを大切にし、出会い、事実を知り、自分に引き寄せて考えながら、現在と過去をめぐります。「ナガサキを最後の被爆地に」との声を上げ続けてこられた被爆者の願いを次世代へつなげ、「核」が二度と使われることのない世界を目指しています。

核兵器廃絶は一人ひとりの力によってこそ実現されるもの。今を生きる私たちが声を上げ、行動することこそが、「核」なき世界をつくっていくと私たちは信じています。

元高校生平和大使で、核廃絶活動に取り組む大学院生の藤田裕佳さんは、本誌8月号で、「平和をつくる方法として、最も大切なのは知ること」と説いています。自身の活動のきっかけも、中学時代に核

兵器の脅威を知ったことにあるそうです。来春もまた「ひろしまを考える旅」を実施します。一昨年は中学生からシニアまで42名が参加しました。この歴史的な受賞を励みに、核のない世界に向かって共に歩みましょう。

藤田裕佳さんのメッセージ  
機関紙2024年8月号  
「非暴力で平和をつくる」



## ひろしまを考える旅2025

学ぼう! 核のない世界のために  
伝えよう! 核兵器の非人道性を



**日程** 2025年3月24日(月)～26日(水)

**主な会場** 日本バプテスト広島キリスト教会  
広島平和記念資料館見学のほか、被爆者による証言を聴き、フィールドワークを実施

**定員** 30名(定員になり次第募集終了)

詳細は12月中旬に日本YWCAのSNSでご案内!



エンパワーするNGO



## 2024年度クリスマス募金のお願い

日本YWCAは、日本全国・世界各地のYWCAとつながり、  
弱い立場におかれがちな女性や子どもたちを支援し、  
その声を社会に伝えるために活動しています。2024年のクリスマスを迎えるにあたり、  
2つの活動へのご寄付を心よりお願い申し上げます。

### オリーブの木キャンペーン募金（一口4000円）

日本YWCAは、イスラエル軍や入植者に脅かされるパレスチナの土地にオリーブの木を植える「オリーブの木キャンペーン」（パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」が実施）を支援しています。オリーブの木はパレスチナの人々にとって生計の手段であり、貴重な栄養源。そして繁栄と幸福のシンボルです。オリーブの苗木を寄付することで、パレスチナの農家を支え、国際的な連帯の声を届けることができます。一口4000円で1本の苗木を植樹できます。寄付者には現地団体から証明書が発行され、植樹記念のプレートに名前が刻まれます。お名前のご読み仮名をローマ字表記で必ずご記入ください。

### ピースメーカーズ募金

日本YWCAは「平和を実現する人々は幸いである（新約聖書マタイ5章10節）」をテーマに、一人ひとりがピースメーカー（Peacemaker）として平和をつくりだす活動を展開しています。特に若い女性たちに、国内外でリーダーシップを身に付けて発揮する場と機会を提供することで、一人ひとりの若者がエンパワーされ、平和をつくりだす力を得ることを目指しています。ピースメーカーズ募金は「国連女性の地位委員会（CSW）派遣」（ニューヨーク）、「日韓ユース・カンファレンス」（韓国/日本）、「ひろしまを考える旅」（広島）などに用いられます。

お振込み先

郵便振替 00170-7-23723

\*通信欄に「クリスマス募金（ピースメーカーズ）」「クリスマス募金（オリーブの木）」のいずれかをお書きください。

加入者名 公益財団法人日本 YWCA

銀行振込 三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743

口座名義 公益財団法人日本YWCA office-japan@ywca.or.jp \*下記のアドレスに①募金の種類、②お名前、③ご住所をお知らせください。

インターネット 日本YWCA公式サイトから、クレジットカードを用いてご寄付いただけます。

<https://www.ywca.or.jp/getinvolved/donate/>

ご協力ありがとうございます

賛助費

五十嵐和子 井口諭 遠藤洋子

熊江雅子 小谷充子 柴田恵子

首藤和子 辻加代 寺山朝子

都木恵子 古川道子 牧甫

松田和子 宮澤玲子 森山和子

八木高子 安川美歩 山本鉄子

吉岡真紀子 渡辺修一

ピースメーカーズ募金

（平和を創り出す女性のリーダー

シップ養成）

嘉屋陽子 熊江雅子 小谷充子

関むつみ 辻加代 都木恵子

八木高子

災害時支援募金

（国内外の災害被災者支援）

熊江雅子 野澤節子 橋本文子

古川道子 松田和子 安川美歩

由良昌子

（オリーブの木キャンペーン募金）

熊江雅子 関むつみ 田中良明

辻加代 富田謙考 友田ソズエ

橋本文子 安川美歩

（フクライナ支援）

公益財団法人福岡YWCA

（パレスチナYWCA支援）

嘉屋陽子 熊江雅子 小谷充子

辻加代 都木恵子 橋本文子

古川道子 松田和子 安川美歩

（能登半島地震被災者支援募金）

村上千代子

東日本大震災被災者支援募金

嘉屋陽子

（2024年8月16日～10月15日  
敬称略）発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室  
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています

メルマガ登録 [y-net@ywca.or.jp](mailto:y-net@ywca.or.jp) にお名前を送ってください / フェイスブック [www.facebook.com/YWCAJapan](http://www.facebook.com/YWCAJapan)